



広報 みまた

発行・編集 北諸県郡三股町総務課 ☎52-1111 発行11月20日 No.273

町民憲章 (昭和39年1月4日制定)

わたくしどもは、歴史に輝き山河うるわしい三股に生を受け、先人の協和と忍耐による郷土建設の偉業を継ぎ、郷土愛と開拓精神をもって、ここに明るく豊かな、明日の町づくりのためにこの憲章を定めます。

- 常に新しい希望をもって郷土の開発につとめましょう。
- 教育を尊び青少年を健やかに育てましょう。
- 環境を清潔にし健康の増進につとめましょう。
- 生活を工夫しよりよい風習をつくりましょう。
- 力をあわせねばり強く住みよい町を築きましょう。

三股町の花 サツキ:鳥 ホオジロ:木 イチョウ

交通安全 今日笑顔でゆずりあい

広報みまた 11月号

おしらせ



戸籍手数料が

改正されます

政令により、平成五年一月一日から戸籍手数料が上がりま

証明・交付の種類	改正前	改正後
戸籍の謄本又は抄本の交付 (1件につき)	300円	400円
除かれた戸籍の謄本又は抄本の交付 (1件につき)	500円	700円
戸籍に記載した事項に関する証明 (証明事項1件につき)	200円	300円
除かれた戸籍に記載した事項に関する証明 (証明事項1件につき)	300円	400円
受理証明及び書類に記載した事項の証明交付等	200円	300円

第44回人権週間

12月4日~10日

こんな時には

お近くの人権擁護委員に

十二月四日から十日までの一週間は、人権週間です。人権が侵されたり、侵されるおそれがあるとき、また、いじめや体罰、

その他家庭内の問題、借地、借家、登記、金銭消費貸借問題など、いろいろなことでお困りの方は、お近くの人権擁護委員が宮崎地方司法局都城支局へご相談を。相談は無料で、秘密は固く守

られます。

◇人権擁護委員

福重 美義

草留千枝子

隈元 喜一

轟木 秀明

◇宮崎地方司法局都城支局

都城市八幡町十五街区十号

☎二二一〇四九〇

愛の献血

次のとおり献血にご協力いただきました。ありがとうございました。

○九月二十五日

役場(来庁者含む)

成分献血 五十四名

○十月一日

都城東高校 三九九名

一般寄付

家入武彦君(中原) 五千元

武彦君は遺失物法に基づいて還元されたお金を社会福祉に役立てて下さいと寄付されました。ありがとうございました。

三股町の人口

平成4年11月1日現在

男	10,370人	出生	26人
女	11,442人	死亡	15人
計	21,812人	転入	105人
前月比	+36人	転出	80人
世帯数	7,241戸	(+12戸)	

納入者	続柄	故人名	地区	金額
新森 静枝	夫	照男	豊池	三万円
鈴木トミ子	夫	正二	寺柱	三万円
森 ワキ	夫	実彦	下新	十万円
平永セツ子	夫	敦盛	寺柱	三万円
高田 紀子	夫	四郎	山王原	五万円
重久 久子	夫	安立	餅原	五万円
前田 義照	父	秀二	寺柱	五万円
横山 勝裕	母	フデ	稗田	二万円
木下 正一	母	ミヅ子	中米	二万円
榎田 嘉雄	母	ワカ	榎木	三万円
野崎 昌一	母	ミヨ子	榎木	一万円

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明け寄付を次の通りいただきました。故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、社会福祉発展のために有意義に利用させていただきます。誠にありがとうございました。

平成四年十月一日から平成四年十月三十一日まで

スポーツ少年団

三股西少女バレー

団員は30名。西小の渋谷、高森両教諭の指導を受けながら、練習に汗を流しています。

平成4年
/11月号

文化の日
に開催

平成4年度表彰式

文化賞に平山さん、中石さん
功労賞2名1団体・善行賞4名



産業や福祉文化など、あらゆる分野で本町の発展に貢献された方々や町民の模範となる善行をされた方々を顕彰する平成4年度表彰式が、「文化の日」の十一月三日、役場大会議室で開かれました。今回表彰を受けたのは、文化賞の平山典子さんと中石義洋さんをはじめ、功労賞二名一団体、善行賞四名の計八名一団体。表彰式には、町三役や町議会議員のほか、教育委員や農業委員、自治公民館長、各種団体役員など約百二十名が出席し、受賞者を祝福しました。受賞者は次の方々です。

【前列】左から栗野喬夫さん、政野政光さん、町長、平山典子さん（代理）中石義洋さん（代理）、桑畑ミツさん
【後列】左から助役、教育委員長、財部一男さん、山領綱春さん 消防団長の中村修一さん、新村セツさん、議長、収入役

文化賞

芸術部門
宮崎県女性として
初の日展特選

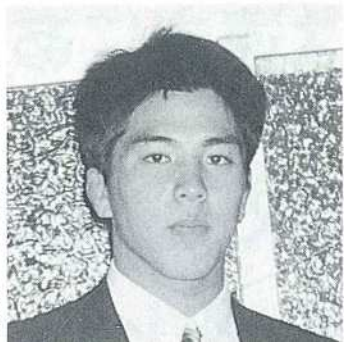


平山 典子さん

平山さんは、本町長田地区で創作活動をされている現代工芸家。昭和五十五年に入形作家から現代工芸に転向。同年、日本現代工芸美術展に初応募で入選され、以来、連続入選中。現在、現代工芸美術家協会会員で同美術展審査員の資格も取得されています。また、日展にも昭和五十八年から連続十回入選中。特に今年の第二十四回日展では、宮崎県女性として初の特選に輝かれています。平山さんの中央を舞台にしたご活躍、数多くの受賞歴は本人の榮譽であるばかりでなく、町民の文化芸術の意識高揚に大きく寄与するものです。

文化賞

体育部門
アマレス3連覇
世界選手権で活躍



中石 義洋さん

中石さんは現在、日本体育大学

の4年生。レスリング・フリースタイルの選手として、高校2年生で九州チャンピオンになるなど、早くからその天性の素質が注目されてきました。

大学時代はアマチュアレスリング選手権3連覇をはじめ、全日本学生選手権や文部大臣杯、内閣総理大臣杯など多くの大会に優勝。平成2年のエスポワール世界選手権大会では銅メダルに輝き、今春には県スポーツ特別賞を受賞されています。

中石さんの活躍は、本町体育文化の向上に大きく寄与すると同時に、スポーツを志す児童生徒に夢と希望を与えるものです。

功労賞

社会部門

老人クラブの
充実発展に尽力

栗野 喬夫さん

栗野さんは、長年にわたり町老人クラブ連合会会長として同連合会の充実発展に尽力されました。

この間、高齢者スポーツの普及に努められるとともに、教養部活動や社会奉仕活動を積極的に推進して会員の社会参加を促し、高齢者の健康づくり、生き甲斐づくりにも多大の貢献をされました。また、町社会福祉協議会理事や北諸郡老人クラブ連合会会長などとしても活躍され、高齢者の福祉増進に寄与された功績は誠に顕著なものがあります。

善行賞

桑畑 ミツさん
山領 綱春さん
新村 セツさん

三名の方は、文化会館の建設や町立図書館の蔵書充実、小学校の教育用図書購入に役立てて下さると、町に多額の寄付をされました。



財部 一男さん

財部さんは、五十回以上も献血に協力されています。この相互扶助精神は他の模範とするものであり、社会福祉の発展に大きく貢献するものです。

消防活動に精励

操法大会でも活躍

三股町消防団

三股町消防団は、団員がそれぞれ

産業部門

土地改良事業に貢献

政野 政光さん

政野さんは、長年にわたり樺山土地改良区の代表幹事として同土地改良区の適正運営や財政健全化に尽力され、土地改良事業の推進に多大の貢献をされました。

この間、実施された主な土地改良事業としては、県営ほ場整備事業米満地区、県営老朽ため池整備事業前山地区、同大谷地区があり、農業生産基盤整備はもとより本町農業の振興発展が図られたものです。



第九回在京三股会総会

ふるさととは遠きにありて思ふもの……

日本の中央で活躍する町出身者 三股人としての絆を深める

在京者三股会

関東地方在住の
三百五十名が加入

「ふるさととは遠きにありて思ふもの……」。これは、室生犀星が大正時代の初め頃に作った詩。ふるさとを離れ都会で暮らす人の、ふるさとへの愛着、心情を見事に表現した詩として知られています。時は流れ、時代は変わっても、人々のふるさとに対する思いは同じ。本町出身者の中にも、都会にあって、ふるさとへの思いを募らせている人たちがたくさんいます。

在京者三股会（石崎俊雄会長）は、そうした人たちが集まってつくったもの。昭和59年の結成で、現在、東京都や千葉県、埼玉県、神奈川県など関東地方に住んでいる人たちが約三百五十名が加入。ともにふるさと「三股」を語りながら、三股人の絆を強めています。

ふるさとと発展に熱いエール

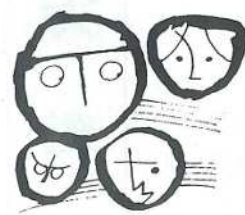
総会に町長・議長が出席

その第九回総会が十月二十五日、新宿の三井ビルで開かれ、ふるさと三股町から福永町長や高畑議長など五名が特別参加しました。

当日出席した会員は約八十名で、日本の中心地で会社員や公務員として、あるいは事業主として華々しい活躍をしている人、また主婦や学生、定年退職した人と、その顔ぶれは様々。

総会は、立食形式で和やかに進

行されましたが、出席者の多くが一時間以上もかけて会場に集まって来た人たち。それだけに、ふるさとへの思いは強いものがあつたようで、福永町長や高畑議長に、「三股町発展のためがんばって欲しい」とエールを送りながら、ふるさとへの熱い思いを語っていました。



あなたの声を町政に



福永町長と語ろう

ふれあい行政 モーニング・フォーラム

ニクなアイデア、建設的なご提言をお聞かせください。
フォーラムには、どなたでも参加できます。大勢の方のご来場をお待ちしています。気軽な服装でどうぞ。

あなたも「あすの三股づくり」に参加しませんか。
今後のまちづくりの進め方や三股町の将来像など、皆さんのユ

一、日時 十二月十一日（金）
午前7時～8時
二、場所 役場4階大会議室

あがな 贖いの日々

私が事の重大さを感じたのは、保釈という形で留置場から釈放されて、母と共に被害者のお宅へお詫びに伺った時でした。それまでは、半分夢の中のような状況下にいるのか、よく分かりませんでした。しかし、被害者のご遺族におめにかかり、遺影の前で涙を流しながらお詫びしている時、「自分はこの写真の人を殺してしまっただ。人殺しになってしまったのだ。」ということをやよく実感しました。

私は、自動車運転免許というものを取得したことはありません。高校を卒業して一浪後、なんとか大学に合格することができました。車が大好きな私は、早速、自動車運転教習所に通いながら知人の紹介で自動車を売ってもらいました。しかし、アルバイトを始めました。しかし、教習所へ通うことが困難になってしまいました。しかし車の方は、予定より早く手続きが済んで、自宅の前に置くことになってしまいました。駐車場が無いということで、名義変更は

まだしていませんでした。

学校が始まると、アルバイトの回数を減らしたために暇な時間が増えてきました。そして両親も働きに出ていたので、家に私一人しかいないということがかたがたありました。そのような時、私は好奇心から自宅前に止めてある車に乗り込んで、スイッチ類やシフト操作を覚え、とうとう動かし始めました。

自宅の周りの道は私道で他に走る車もなく、他人に迷惑をかけることもなさそうでした。自宅前の道路で車を動かすことが何度か続くと、公道に出てみたいという衝動にかられました。しかし、運転に対する自信もなく、なによりも無免許で運転することは悪いことだと思いつつ、なんとか自分の気持ちを抑えていました。けれども、頭の中はいつも車のことで一杯、夢の中にも車を運転

代償の大きさ

学生 22歳

している自分が出て来るという状態が続きました。そしてついに、私は家の前から近くの公道へと車を走らせてしまったのです。最初のうちは緊張で心臓は高く鳴り響き、ひやひやしながら懸命に運転してしました。今思えば、その時の私はほとんど夢遊病者のような感じでした。しかし、これですっかり自信がなくなってしまいました。もったいなく走らせてみようとしているうち交差点に入りました。そこが被害者の方と私の墓場となってしまいました。

私の方が右折している時に、被害者の方のバイクが衝突したのです。「ドン」という鈍い音がしてバイクは、はね返されていました。「とうとうやってしまいました。」と思いつつ駆け寄ると、被害者の方は体を丸めて苦しんでいました。すぐ近くに店があったのでそこから電話をかけてもらい、交差点から車をどかして、後ほどうすることも出来ずにただ茫然と被害者の傍に立って救急車が来るのを待つだけでした。

結局、被害者の方は二時間ほどして内臓破裂で亡くなりました。

現場検証の途中で、被害者の方が亡くなったという事を知らされても全く実感がなく、「ああ、そうなのか。」という感じで、手錠をかけられても留置場に入れられても、まだ半分、夢の中にいるようでした。

私が留置場にいる間、両親は遺族の方のお宅へ行き、私の代わりに罵声を浴び、非難され責められ続けました。被害者の方は十七歳の少年で、就職も決まりこれからという時でした。この事故以来、遺族の方々や私の家族は暗い日々を送っています。私一人の身勝手な軽率な行動が将来有望な少年の命を奪い、多くの人々を悲惨な目に遭わせてしまいました。

そして私は今、市原刑務所で償いの日々を送っていますが、本当の償いは社会に復帰してから遺族の方々や自分の家族に、少しでも報いていくことだと思っています。



交通事故第一当事者
三股町のワースト順位
九月末現在 五位

子どもの声を聞く会 (No.1)

郷土づくりや人間像など

児童生徒九名が発表

子どもたちが日頃考えていることや、郷土づくりなどについての意見を聞く会と、「子どもの声を聞く会」が十一月三日、町表彰式に引き続き開催され、各小中学校の代表児童・生徒九名が力強く意見を発表しました。

今月号から、聞く会で発表された子どもたちの声を連載します。

郷土を守り育てる心



三股小6年1組 下村 晋也

文教の町三股と昔から言われているほくたの郷土三股町に、ほくは誇りを感じています。

人が町を育て、人が町を発展させていくのだと先生からも聞いたことがあります。三股町は、その



平成4年度 三股町子どもの声を聞く会

人づくりに力を注いできたのかもしれない。ほくが毎日通っている三股小は、学習環境に恵まれています。百年の歴史を感じさせてくれるせんだんの大木を見ていると、なんだか力がわいてくるようです。校舎も新しくなり、気分もあらたに学習しています。

古き伝統の中にも、新しい時代にそった学校作りも行われています。コンピュータなどの設備もあり、学習などでますます活用できると思っています。そのような三股町ですが、昔から残されている伝統

的なものや歴史にもほくは興味を持っていきます。大昔のいせきも残っていて、歴史の勉強のときにも役立ちました。

その他にもその時代時代で活躍した人や歴史的な遺産もあり、これからの勉強にも参考になるものが多いように思います。また、三股町に残されている伝統芸能の中でも棒おどりなどの郷土芸能が特に代表的だと思います。はじめ、棒おどりを見た時、ほくは心をゆさぶられる思いで、どきどきした気持ちでいつのまにか真剣に見、そして運動会でも真剣にとり組むようになりました。今でも、ほくだけでなく、多くの人がこのおどりを真剣に受けとっているのは、昔から「このおどりをとだえさせるわけにはいかない。」という熱心な気持ちがあったからでしょう。ほくは、そんな多くの人の願いが、ほくの心にささやきかけているような気がします。これからの時代のほくたちが、その意志をいついかなければならないと思えます。

三股町は、古き伝統ばかりでなく、自然もすばらしいと思います。水はすんで魚が泳ぎ、山は緑におわれ、空は青くすみわたり、深呼吸すると肺の底からきれいになるような感じがします。休みの時

など、そんな豊かな自然の中で友だちといっしょになって遊ぶことも多くあります。しかし、そんな豊かな自然もほくがおいたら、しだいに失われていくにちがいない。これを防ぐには、自然を守ってあげなければならぬのではないのでしょうか。自然からしてもらおうとばかりではいけないと思います。自然にしてあげられることもほくたちにはたくさんあると思います。なにができるのかをみんなだまじめに考える時かもしれません。

ほくは、三股町に誇りを感じていますが、これからの三股町をもっとよくしていくためには、やはりそこに住んでいる人と人とのふれ合いの場を増やすことだと思います。ほく一人だけの力ではどうしようもありません。人と人との力の和が大きな力となって三股町を発展させていくのではないのでしょうか。そして、いろんな人の意見も大事にしていけたら新しい考えが生かされて、活気のある町づくりにできると思います。自然と伝統文化を大切に守りながら、二十一世紀へ向けて、ほくたち若い人たちががんばっていけば、文教の町三股の名はこれらからも引きつがれていくのではないかと思います。

私は、こんな友達関係を

つくりたい



長田小6年 三上 美奈子

私が理想とする友達関係は、友達を信頼でき、何事も相談できて、いつも楽しいふんいきであるという事です。今の私には、クラスメイトはもちろんの事ですが、心から話し合える友達がたくさんいます。

この夏私は、国内研修派遣団員として、東京、大阪、奈良、京都方面へ、我が国の文化、経済、産業を、直接見たり聞いたりする、五泊六日の研修に参加しました。初めて出会う仲間達十六名と、知らない土地へ行く不安と期待の中で、出発心細さは、言葉にならないものがありました。それは皆同じ気持ちだったかもしれません。私は、この旅行で友達ができるかなあ、と心配でした。そして、勇気を出して声をかけたら、言葉が返ってきて、とてもうれしくなりました。それから、しだいに、みんなうちとけて話しをするように

なり、楽しくなってきました。皆と友達になりたい、その気持ちが出たのです。

友達関係というのは、信頼関係だと思えます。私は皆から、信頼されているだろうか、と時々考えてしまいます。信頼されるという事は、好かれて、信じられている事だと思えます。(あの人は、秘密を守ってくれる。)と安心できる事です。人から信じてもらえる事、そして、自分も、人を信じようとする努力が必要だと思えます。信頼を失ったら、友達関係は、なくなってしまうからです。だから私は、そういうものを大切にしたいと思えます。

大都会の人ごみの中を、大きなバッグを持って、足早に移動する時、私はおくれまいと必死になって、皆について行きました。その時の、中学生のリーダーの、やさしいまなざしに、励まされ、安心したのを忘れる事はできません。信頼とは、そういうものだと思います。そこで、時々、手紙を交換したり、町の陸上記録会や、音楽祭で、再会するのが、とても楽しみにしていました。

友達がふえるという事は私には、宝物がふえていくことと同じに思えるのです。少しの言葉で傷つき、少しの言



だより (第72号)

※只今、長期休館中
当館の蔵書整理と点検補修及びくん蒸消毒のため十二月一日まで休館中です。返本ポストは設置してありますので、返本にきた方は利用してください。

読書の秋 大いに図書館を利用しましょう

秋から冬にかけては長い夜が続きます。読書に最適の季節です。とは言っても、いちいち本を買って読むのは限度があります。そこで、そういう人のためにこそ図書館があります。

当図書館は、だれでも利用でき(たとえ、町外の人でも広く解放しています)。

来館したら自由に手にとってご覧になってもよろしいし、無料で貸し出しもします。但し、借りる場合簡単な手続き(印鑑持参)をし、てもらい即貸し出します。一人二冊まで10日間。

ところで、三股町の図書館はどこにあるかご存知ですか。意外と知られていないのが現実です。図書館は町中央公民館の建物に接し、玄関は西側にあります。

※新聞コーナー

宮崎日日新聞と読売新聞の二紙を置いてあります。月ごとにまとめて保管してありますので、さかのぼって読んだり調べたりすることが出来ます。必要な時は職員にお申し出下さい。

※予約サービス

読みたい本が無かったり、購入してほしい本があれば、これも職員にお申し出ください。予算との関係もありますが、できるだけご希望にそうようにしたいと思います。

※児童文庫と一般文庫

全部の児童館(12ヶ所)に児童図書50冊を置いてあります。また、遠方の前目、蓼池、宮村、梶山、長田の児童館には成人向けの一般図書50冊も置いてあります。これらの本は、三ヶ月毎に交換しています。図書館に遠い人は大いに利用してください。

Table with 7 columns (Week, Day, Month, Fire, Water, Wood, Metal, Earth) and 5 rows (1-5) showing library closure dates for December.

葉で励まされ、人の心は変わっていきます。「友達とは?」と、問われたら、私は、「信頼でき、何でも相談できて、一緒にいて楽しい人。」と、答えます。学校にいても、家にいても、友達のない生活は考えられません。大事な宝物は、いつも近くにあるのです。その宝物を、なくさないために、友達関係を、もっとよいもの

おでん

勤め帰りのサラリーマンたちが、夜風の寒さに「おでん屋で一杯やろうや」と、誘い合いたくなる季節になりました。鍋の中でグツグツ煮えている大根、はんぺん、昆布、こんにやく、豆腐、しらたき、薩摩揚げ、がんもどき、竹輪、つみれ、すじかまほこなど。温かなおいが、食欲をそそります。そこで、クイズを一つ。これらの中で、一番古い履歴をもったおでんダネは何でしょうか。正解は豆腐。「おでん」は田楽豆腐、略して「田楽」の楽を省き、接頭語「お」を加えた言葉です。



長方形の豆腐を串に差し、みそをつけて焼いた田楽は、白袴で高い下駄をはいて踊る田楽法師の姿からきた名称でした。「おでん」のように、単語の下部を略して「お」をつける造語法は、宮中の女官たちが用いた「女房詞」に始まる、女性仲間の隠語的表現の一つです。さつまいもを「おさつま」、むつきを「おむつき」というのと同じ女性語の「おでん」を、語源を知らずに食べている女性も多いのではないのでしょうか。



新刊図書のお知らせ

町立図書館では、次の図書を入手しました。ぜひ、ご利用ください。

一般向

- 宮崎県の百年 別府 俊紘
対話する人間 河合 隼雄
ひるめしのもんだい 椎名 誠
草原の記 司馬遼太郎
新みやぎの謎 三又 喬
心は老いるか 長谷川和夫
うた歳彩 佐佐木幸綱
イギリスは愉快だ 林 望
人生いつでも出発のとき 田中 澄江
桂子のネジ巻人生七十年 内海 桂子
唱歌一四五曲の散歩道 山田 清子
木谷道場と七十人の子どもたち 木谷 美春
サ・スペースエイジ NHK取材班

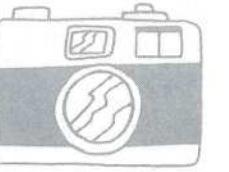
小・中学生向

- 文芸まんが わんぱく時代 佐藤 春夫
二十四の瞳 壺井 栄
森の草花 長谷川哲雄

幼児向

- あるひうちゅうで きたむらさとし
なぞなぞアルファベット きたむらさとし
ねむれないひつじのよる きたむらさとし
とんとんとめてくださいな こいでたん
月とダイアナ やすおか南み
ねこのゆきのじょう やすおか南み
ふーんだ わたせのぶあき
たにむらくん 岡本 けん

町の話題



第5地区 壮年部



老人ホームで奉仕作業

環境美化に一役買おうと、第五地区壮年部(児玉玄哲会長、部員二十名)は十月十一日、老人ホーム清流園の草払いを実施しました。奉仕作業には、早朝にもかかわらず部員多数が参加。草刈り機を背負い、汗だくになりながら敷地内の全部の草刈りを

元気に育って

赤ちゃんが土俵入り

赤ちゃんの健やかな成長を祈願する「赤ちゃん土俵入り」が十一月八日、宮村の御年神社秋祭りで行われました。赤ちゃんの土俵入りは、地域の活性化に役立てようと四年前から始めたもの。物珍しさや親心も手伝ってか、回を重ねることに赤ちゃんの数は増加。今年は都城北諸県郡内の五十名を超える乳幼児が参加しました。土俵入りではまず、八名の力士

が登場し、歌に合わせて土俵を一周。続いて模範相撲を披露した後、赤ちゃんが一人ずつ力士に抱かれて土俵入り。力士が四股を踏むと、会場のあちらこちらから「よいしょ、どっこいしょ」の掛け声がかかり、びっくりして泣き出す赤ちゃんも多く、笑いの渦の中で見物人の祝福を受けていました。また土俵入りに先立ち、女性六名が相撲甚句に合わせて踊りを披露、祭りに花を添えました。



三カ月の熱戦に終止符

ミニバレー夜間リーグ



三カ月間にわたって熱戦を繰り広げてきた国民健康保険杯ミニバレーボール大会(夜間リーグ)が、十月三十日、閉幕しました。大会は、町民の健康づくりを目的に、国民健康保険がミニバレーボール連盟と共催で毎年実施しているもの。今年の大会には、連盟に所属している男女混成の百七チーム、約七百名が参加。八月一日から年代別に分かれ、熱戦を展開しました。

- 結果は次のとおり。
- ☆30歳代
 - 優勝 中央クラブC 二位 MSKKクラブB
 - 三位 土曜クラブA
 - ☆40歳代
 - 優勝 城山チームA 二位 下新ミニA
 - 三位 大鷲東球友
 - ☆50歳代
 - 優勝 上米ミニA 二位 夢池ミニB
 - 三位 フレンドB

若さに挑戦

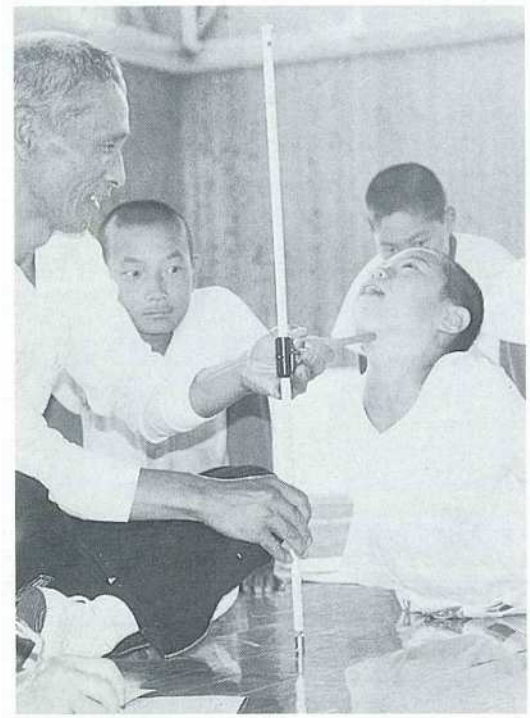
体力テスト会

体育の日にちなんで十月十日、町民体力テスト・レクリエーション大会が武道体育館で行われ、小学生や一般の人など五十名余りが参加しました。

体力テストは、日常生活の基本となる体力を確かめ、その結果に応じて自分に適した運動を行い、健康の維持増進を図るのがねらい。体力テスト会では、筋力や瞬発力、持久性、柔軟性など六項目の検査が行われ、参加者は反復横飛

びや垂直飛び、ジグザグドリブルなどに懸命に挑戦。川原順子さん(東原、五十九歳)が二十代の体力と判定されるなど、全体的に若

いというテスト結果が出ました。さて、あなたの体力は何十代?



和牛生産農家も休んでヘルパー利用組合が発足

旅行や冠婚葬祭などの緊急時には農作業を休めるようにと、町内の和牛生産農家が十月三十日、和牛ヘルパー利用組合(額川勲会長)を設立しました。



組合には、町内の全部の和牛生産農家四百八十六戸が参加。ヘルパーには組合員十一名がなり、休みを取る農家に代わって、午前と午後の二回、飼料やりや牛舎の清掃などをすることになっています。本町では、既に県内に先がけて酪農家と肥育牛農家が定体制をスタートさせており、これで畜産農家の休暇制度がすべて整ったこと

になります。農業従事者の心身の健康はもちろん、後継者確保の面からも大きな期待が寄せられています。

仲町が交安セミナー

仲町自治公民館(黒肥地浩館長)が主催する交通安全セミナーが十月二十日、町研修センターで開かれました。



町内の交通事故が多発していることから、住民の交通安全意識の高揚を図ろうと初めて企画したもので、地区内の子供から高齢者まで約六十名が参加しました。セミナーでは映写会の後、講師で都城警察署交通課の野田勤係長が「車はすぐには止まれません。事故を防ぐためには車の特性を知ることが必要」と講演。参加者は熱心に聞き入っていました。